

朝の光



農業委員
富田 博明
(太田)

農業委員になって1年と数か月経過して思うことは、農業従事者への支援不足や課題解決策など諸問題は未だ沢山あることがわかってきました。『農地を守る』を合言葉に農地パトロールを行っていますが、秩父地域ならではの、中山間地域ならではの諸問題をどうやって改善・解決策はないのかと考えてしまいます。

農水省の政策による、人・農地プランでの地域農業を守るために、地域計画が全国各地で取り上げられています。農地を守り、農業継続の為にとても良い方策だと思います。ですが、秩父地域での農地ではなかなか難しい問題です。パトロールに行っているんな農地を拝見しています。山あいの傾斜している農地に赴くと、大型機械も入らない様な坂道を歩いていくと、一反分近い農地に大根や白菜など、綺麗に作付けされておりました。耕うん機程度は使用できたとは思いますが、大変感心さ

せられました。また、少し歩くと、道路からの側道もキレイに舗装された道の先にある農地であるにも関わらず、小木が生い茂る状態になってしまっている農地を拝見すると、残念に感じてしまいます。

日本の農業における中山間地域の耕地面積は、農地全体の約4割を占め、その役割は大きい。中山間地域としての交付金制度も利用して農業継続を維持し続けるのも農業従事者の高齢化や、担い手不足の問題など、ますます大変な時代になってきました。スマート農業の促進や、地域農業のブランド化など、面白い話題もあります。不耕作農地の減少を抑制できる対策としては厳しいかと思っています。

ある農家の方から話を伺った時の事です。傾斜地にある農地を耕作しているが、野生鳥獣被害の防止策として、電気柵を設けて耕作しております。市の補助金制度を利用すれば、納入費用の半額（上限あり）は補助金として受け取れますが、申請もめんどくさいし、時間ももつたないの、自費で設置した趣旨のことを話していました。おっしゃる気持ちもよくわかりますが、もし電気柵の設置をお考えの方がおりましたら、せっかくの補助制度なので市

役所農業政策課へ相談されてはいかがでしょうか。

最後に、農業委員として任命を受けましたので、微力ではありますが、農業が楽しく生活できる喜びを皆さん感じてもらえるように、活動に取り組んでまいります。

耕地の話題



農地利用最適化
推進委員
関根 正男
(寺尾)

私は定年後4年前から自給自足をする為に、畑の手入れを始めた。竹が侵入していたからだ。手からみつけた根を掘ってみた。

次の年は、いよいよ野菜を作るところを深く掘り表土と入れ替えをしていたら、30センチくらいの石がゴロゴロ、そこいらに置いておいたら、遺跡の発掘をしているのかい？」と言われた。飯塚・招木古墳群というものがあり、私の畑でもそれらしい土器のカケラが出て来た。

また、近くには樹齢300年以上と言われる榎があり、故事来歴はわからないが、厄神様の祠が祀っており、道の反対側には、移転した庚申塔な

どがある。

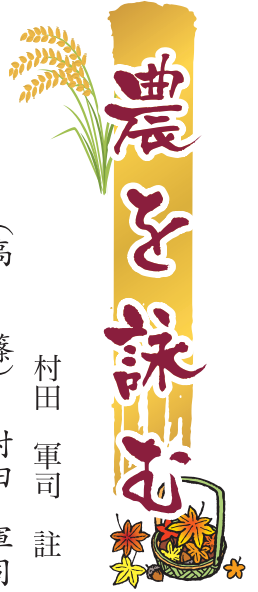
そんな時に、農地利用最適化推進委員の話をもらった。簡単に引き受けた訳ではないが、農業委員会と言われて、何か悪い事でもしたのかなとか、何かと疎ましがられるようだが、農家、農地の味方という立場である。

推進委員は、昨年7月から始まり色々な場面で理解が追いつかず、先輩委員の皆様や事務局の方々に迷惑をかけているようである。

畑には夏野菜を植えた。とはいえ苗は買ってきたものだ。つまり苗が良ければ、半分出来たも同様、そこで理想は、無農薬有機栽培で地産地消の一助になればと思いつけている。成果は上々である。特に今年は、スイカとサトイモが良いようである。

直売所や市場には出さないが、オーガニックな朝採れ野菜である。

毎年9月から農地利用状況調査という地道に現地を調査、記録していく仕事が始まる。毎日散歩がてらパトロールし、自分の考えで記録したものが、利用意向調査の封書が届くと、判定に不服な人も少なくない。そんな意見を気にしながら、先代から受け継がれてきた土地を、後世に残す手助けができるようにしていきたい。



村田 軍司 註

天空へ舞ふ龍勢や豊の秋
(高 篠) 村田 軍司

牛蒡引く大地に力瘤見せて
(荒 川) 逸見 壽江

山風に稲穂騒めく棚田かな
(上 町) 石川 弘美

風渡る白一色に蕎麦の花
(中宮地町) 浅見 昭文

電気柵めぐらせ峽の稲稔る
(蒔 田) 島田 敦子

庭畑のほど良き熟れし秋茄子
(高 篠) 北堀 聖

山峡の日和あまさず胡麻を干す
(金室町) 峯 迪夫

農を継ぎ十四代や稲架かくる
(下宮地町) 村山 勇治

農夫笑む籠に山盛り秋茄子
(大野原) 玉井 市憲

秋空に唸る広田のコンバイン
(太 田) 引間 敏恵

知々夫の夜ばなし

『即道のこと』

荒川歴史懇話会 新井 充

人物に関する伝説には、英雄伝説・高僧伝説・超人伝説等があります。実在した人物で、秩父郡内で伝説が語り継がれている人物と言え、弘法大師(空海)、西行法師、平将門、畠山重忠、長尾景春、即道等の名が挙げられますが、秩父で出生し、生涯を終えた人物は即道だけです。

伝説を残している人物は、何れも才知・武勇に優れ、様々な逸話を残していますが、即道もまた例外ではありません。即道伝説については、『新編武蔵風土記稿』(以下、『新記』)が詳細に採録しています。

『新記』に見る秩父郡内の百姓名

『新記』は、江戸幕府が編纂した地誌で、江戸府内を除く武蔵国二十二郡三千八十ヶ村を廻村調査し、村々の沿革・地味・地勢・物産・寺社等の村況を具に記したものです。

『新記』には、廻村調査した文政六年当時の、各村々の旧家者・長寿者・除地所有者(無年貢地)・古物品所持者等の名が記載されています。秩父郡内の八十六ヶ村には延べ百廿二名の村民の名が記載されていますが、そのうち即道を除く村民は全て存命中の人物です(除地所有者先祖九名を除く)。即

道は九十四年前に没した人物でありながら、『新記』の上田野村・賛川村の条の「村民六兵衛」・「常明寺」の項に、かなりの行数を割いて、様々な逸話が紹介されています。即道が江戸時代の秩父郡内で、如何に魅力的で、庶民に親しまれた人物であったかが推測できます。

即道の人生

即道は、俗名を六兵衛(町田氏)と云い、万治元年(一六五八)に上田野村(旧荒川村)に生まれ、若い頃は名主の三上氏に仕え、廿五歳で一急発起し、作仏・作善に勤しむ半僧半俗の生活に入ったと考えられます。六十歳で出家。賛川村の常明寺に入り、享保十四年(二七二九)に七十二歳で入定したようです。

即道伝説

即道については、生存中の文献史料が殆ど無いため、伝説としてのみ語り継がれています。没後高々九十四年後に伝説が採録されていたことを考慮すれば、多少の尾鰭が付いたにせよ、伝説の信憑性は極めて高く、限りなく史実に近いと思われれます。

即道については、『埼玉県伝説集成』・『秩父の伝説』等の伝説集や民話集には記載されていますが、『埼玉人物事典』・『埼玉県人物誌』・『埼玉郷土事典』・『埼玉大百科事典』等の事典類には一切記載されていません。残念なことです。

編集後記

吉川 稔

「農政ちちぶ」第49号をお届けします。皆様には、新しい年を迎えられましたことと拝察いたします。引き続き目を通していただきますようお願いいたします。

さて、本号は、農業委員会が主催しました、小学生の作品募集の紹介、お知らせ、委員さんの声、文芸等で紙面づくりをいたしました。多くの皆様にご協力いただいたことに御礼申し上げます。

農業委員会では、9月から12月にかけて、市内すべての農地を対象に農地利用状況調査を行ないました。今年も遊休農地が増えているように感じました。農業委員、推進委員が、少しでも遊休農地解消のお手伝いができると思います。

秩父市農業委員会広報部会

委員長	青野 孝司
副委員長	小久保健司
委員	井原 愛子
委員	岡田 英幸
委員	栗原 恒明
委員	齊藤 稔
委員	新田 恭一
委員	横田 友
委員	吉川 稔